

外苑事務所

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
(交通)
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩5分
都営大江戸線 国立競技場駅下車(A2出口) 徒歩10分
JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅/信濃町駅下車 徒歩12分

秩父宮ラグビー場

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
(交通)
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩5分

国立競技場

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
(交通)
JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅/信濃町駅下車 徒歩5分
都営大江戸線 国立競技場駅下車(A2出口) 徒歩1分
東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩9分



国立代々木競技場

〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1
(交通)
JR山手線 原宿駅下車(西口) 徒歩5分
東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅下車(1出口) 徒歩5分



ハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC)

国立スポーツ科学センター (JISS)
味の素ナショナルトレーニングセンター (NTC)
味の素フィールド西が丘
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 他
(交通)
都営三田線 本蓮沼駅下車(A1出口) 徒歩10分/
板橋本町駅下車(A1出口) 徒歩13分
JR埼京線・京浜東北線・宇都宮線・高崎線 赤羽駅(西口)からバス
バス「赤羽車庫」行き「HPSC南」下車
「池袋駅東口」「日大病院」行き「HPSC北門」下車



SNS (各QRコードからWebサイトへアクセスいただけます)

日本スポーツ振興センター Facebook
<https://www.facebook.com/JapanSportCouncil/>

日本スポーツ振興センター twitter
https://twitter.com/japansport_JSC

ハイパフォーマンススポーツセンター twitter
<https://twitter.com/jissofficial>

スポーツ・フォー・トゥモロー Facebook
<https://www.facebook.com/sport4tomorrow/>

スポーツくじ Facebook
<https://www.facebook.com/sportsjapantotobig/>

国立登山研修所 Instagram
<https://www.instagram.com/bunazaka6/>

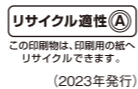
寄附について
独立行政法人日本スポーツ振興センターでは、皆様からの寄附を募集しています。我が国のスポーツや学校安全のさらなる発展のために、皆様のあたたかいご支援をお願いいたします。
<https://www.jpnsport.go.jp/corp/gaiyou/tabid/319/Default.aspx>

独立行政法人日本スポーツ振興センター JAPAN SPORT COUNCIL

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル

<https://www.jpnsport.go.jp>

WebサイトはこちらのQRコードから
英語版パンフレットはこちらのQRコードから
English-language pamphlet at this QR code



JAPAN SPORT COUNCIL

日本スポーツ振興センター
2023-2024

未来を
育てよう、
スポーツの
力で。

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター

JSCは、スポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的に設立された独立行政法人です。

私たちは、「未来を育てよう、スポーツの力で。」というコーポレート・メッセージを掲げ、スポーツが持つ価値が日本の豊かな未来への活力となるように、国内統括団体、国内競技団体、JAPAN SPORT NETWORK (JSN) 加入の地方公共団体等と連携しながら、以下のような取組を推進してまいります。併せて、法人全体でDXに取り組み、各種データや業務のデジタル化、AIの活用等の最先端テクノロジー活用にも積極的にチャレンジし、アスリート、国民へのサービス向上と職員のワーク・ライフ・バランス確保の両立に向けて努力してまいります。

- 観客やアスリートに対するより優れたサービスの提供やスポーツGDPの増大等に寄与する観点、国民負担軽減などの観点から、国の指針等を踏まえながら、国立競技場及び秩父宮ラグビー場のPFI事業（民間事業化）に取り組みます。
- 国立代々木競技場、味の素ナショナルトレーニングセンター、味の素フィールド西が丘等の所管するスポーツ施設の適切な管理運営に努めるとともに、国立登山研修所の機能強化に取り組み、スポーツの振興に寄与します。
- 我が国の国際競技力向上の中核拠点であるハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の機能を更に向上させるため、JOC、JPC、中央競技団体（NF）、地域のスポーツ医・科学センター及び大学・産業界等との連携を強化します。併せて、国際情報分析機能の強化に努めます。オリンピック・パラリンピック競技の一体の強化を前提としながら、オールジャパン体制でトップアスリートの競技力向上を支えます。
- そのほか、オリンピック・パラリンピック競技大会やアジア競技大会・アジアパラ競技大会に出場する日本代表選手に対して、最先端のスポーツ医・科学、情報サービス等を提供し、その活躍を支えるため、大会期間中、大会開催地に拠点を開設し、アスリートの支援に努めます。
- スポーツの振興の重要な財源を生み出すスポーツくじ（BIG、MEGABIG、toto、WINNER等）の販売促進に努めます。また、トップスポーツや地域スポーツ振興のためのより効果的な助成金の配分に努めます。
- アスリートが安心して競技に打ち込める環境等を確保し、クリーンでフェアなスポーツを推進するため、関係機関と連携・協働しながら、スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底やドーピング防止活動の推進等、スポーツ・インテグリティの確保に向けた支援を行います。
- 学校の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に対して災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）の円滑な実施に努めるとともに、学校、家庭や地域におけるこどもの事故防止に関する幅広い情報提供等に積極的に取り組みます。

今後とも、スポーツが育てる豊かな未来の創出に貢献してまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本スポーツ振興センター
JAPAN SPORT COUNCIL

理事長 芦立 訓

日本スポーツ振興センター（JSC）の基本理念とビジョン

基本理念（JSCのミッション）

JSCは、スポーツの推進と人々の健全な発達、健康で豊かな生活を実現し、公正で活力ある地域・社会、平和と友好に満ちた世界に貢献します。

ビジョン（JSCが中期的に目指す姿）

コーポレート・メッセージ

未来を育てよう、スポーツの力で。

JSCのビジョンは、コーポレート・メッセージによって表現されています。メッセージに込めた想いは以下のとおりです。

JSCが考える「スポーツの力」とは

- スポーツに親しむことで手に入れることができる心と身体の元気の力
- トップアスリートの輝く姿を通して胸に沸き上がる夢や憧れ、そして感動の力
- 安心して学校生活を送ることで育まれる子どもたちの明日への力

これらの力は、すべての人にとって、限りない可能性のある未来を育てる力です。

JSCは、「スポーツの力」で、元気や感動、明日への力にあふれた日本を実現し、限りない可能性のある未来を、国民の皆様と一緒に育てます。

目次

- Ⅰ コーポレート・メッセージ／目的・業務／組織概要 — 1
- Ⅱ 理事長あいさつ／沿革 — 2
- Ⅲ 業務紹介
 - 新秩父宮ラグビー場・神宮外苑地区まちづくり — 3-4
 - スポーツ施設 — 5-7
 - 国立登山研修所 — 8
 - 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館 — 8
 - ハイパフォーマンススポーツセンター — 9-11
 - 関係機関との連携・協働 — 12
 - スポーツ振興事業部 — 13
 - 災害共済給付事業部 — 14
 - スポーツ・インテグリティ・ユニット — 15
 - SPORTS JAPAN アンバサダー — 16
- Ⅳ 財務 — 17
- Ⅴ 機構図・連絡先一覧 — 18

目的・業務

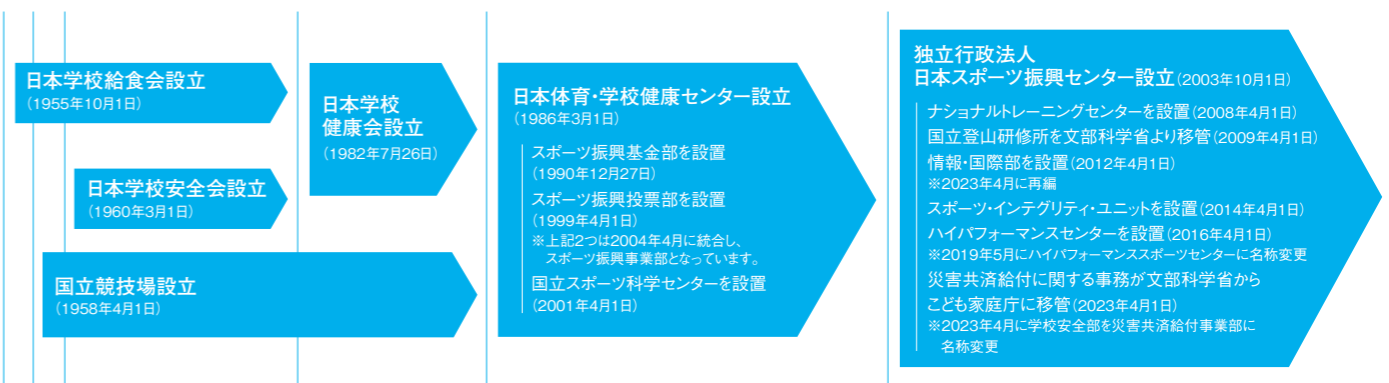
JSCは、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）及び独立行政法人日本スポーツ振興センター法（平成14年法律第162号）に基づき設立され、その目的は、「スポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図るため、その設置するスポーツ施設の適切かつ効率的な運営、スポーツの振興のために必要な援助、学校の管理下における児童生徒等の災害に関する必要な給付その他スポーツ及び児童生徒等の健康の保持増進に関する調査研究並びに資料の収集及び提供等を行い、もって国民の心身の健全な発達に寄与すること」とされています。

組織概要

組 織 名	独立行政法人日本スポーツ振興センター		
住 所	〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1		
常勤職員数	453名（男性:285名、女性:168名）		
役 員	理事長 芦立 訓	理事 岸 千秋	監事 小林 順治
		理事 大西 啓介	監事（非常勤） 大橋 玲子
		理事 久木留 毅	
		理事 大西 達也	

※2023年4月1日現在

主な沿革



秩父宮ラグビー場の移転整備

現在の秩父宮ラグビー場は施設の老朽化が著しく、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応も求められていることから、東京都の地区計画や指針に基づく「神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」の枠組みにおいて移転整備することとしました。

新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業

新しい秩父宮ラグビー場の整備は、「スポーツの力」で未来を育てるスタジアムをビジョンに掲げ、以下の4つのコンセプトの実現を図ることを目的として進めています。

- コンセプト
- 1 我が国のラグビーを象徴するスタジアム
 - 2 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム
 - 3 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム
 - 4 スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

本事業の主な特色

PFI方式(BT+コンセッション)

本事業の実施に当たっては、民間経営による収益性の向上によるJSCの財政負担の軽減を図る観点から、PFI方式(BT+コンセッション)を導入しました。これにより、新秩父宮ラグビー場(仮称)は、民間事業者が施設的设计・建設を行った後、30年間の運営を行うこととなります。なお、BT+コンセッションによる調達には、国の施設としては初めての事例となります。



全天候型(屋根付き)

全天候型とすることは、ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設となるほか、他のスポーツ競技や各種イベントなど多様な用途での活用を図る観点からも有意義であると考えています。特に、利便性においては、①天候の影響を受けることなく使用できること、②音漏れを防ぎ、近隣への影響を軽減できること、③災害時の一時滞在施設となりうることなどのメリットがあります。

人工芝

フィールドは、ワールドラグビー推奨の人工芝とし、常に良好な状態で競技できる環境を整えます。また、人工芝を用いることにより、稼働率の向上はもとより、ラグビー以外の多様な用途での利活用も促進されることが期待されます。

スポーツの多様な価値の発信

スタジアム内に文化交流施設としてスポーツミュージアムを設置するなど、スポーツに関する深い学びを支援し、知的な刺激や楽しみを分かち合う機会を提供します。また、心身の健康の保持増進に加え、スポーツ・インテグリティや国際交流による相互理解の推進などスポーツを通して得られる多様な価値を広く国民に発信し、スタジアムに足を運ぶことで「スポーツの力」、スポーツの可能性を感じることができるスタジアムを目指します。

新秩父宮ラグビー場(仮称) 施設概要		
座席数	階数	高さ
約15,000席	地上7階、地下1階	約46m



※イメージ図・記載内容は、実際の設計・施工段階で変更となる可能性があります。

「神宮外苑地区まちづくり」と「秩父宮ラグビー場の移転整備」の経緯



神宮外苑地区は、東京都が計画策定した四大スポーツクラスターの1つに位置づけられ、東京2020大会の招致・開催を契機に国立競技場の建替等が行われてきました。秩父宮ラグビー場を含む区域については、現在、東京都のまちづくり指針に基づき、スポーツ競技の継続性に配慮した連鎖的なスポーツ施設の整備計画が進められています(上図は再開発後の完成予想イメージ)。

この間、令和元年にはラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、国民からの大声援を受けて快進撃を続けた日本代表が初のベスト8進出を果たすなど、人々に大きな夢や感動を与えた大会となりました。

秩父宮ラグビー場は、老朽化とともに、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応が求められるなか、スポーツ庁主催の「ラグビーの振興に関する関係者会議」において、ワールドラグビー基準の試合環境が用意できる、全天候型ラグビー専用スタジアムの建設に関する(公財)日本ラグビーフットボール協会の発言・要望などを踏まえ、「ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設とすること」、「他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも快適に使用できるように全天候型のラグビー場とし、BT+コンセッション方式のPFI事業により整備すること」などとする「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示されました。JSCでは、この基本的考え方に沿って、新しい秩父宮ラグビー場を整備することとしました。

神宮外苑地区まちづくりと秩父宮ラグビー場移転整備に関する主な経緯

平成23年12月	東京都が「2020年の東京」計画を策定 ・神宮外苑地区を四大スポーツクラスターの1つに位置付ける
平成25年6月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」を決定
平成28年7月	東京都がJSCを含む権利者と「神宮外苑地区まちづくり基本計画の検討に関する合意書」を締結 ・再整備構想としてスポーツ施設を移転整備する案が示される
平成30年11月	東京都が「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定
令和元年9~11月	ラグビーワールドカップ2019日本大会開催
令和3年1月	ラグビーの振興に関する関係者会議(第3回)において、「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示される
令和3年6月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)基本計画」を策定
令和3年7月	JSCを含む関係権利者が「東京都市計画神宮外苑地区再開発等促進区を定める地区計画企画提案書」を提出
令和3年9月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」の実施方針を公表
令和4年1月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」の民間事業者を公募開始
令和4年3月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」の変更を決定
令和4年11月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」契約締結
令和5年2月	東京都が「(仮称)神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」を施行認可

神宮外苑地区まちづくりの取組

神宮外苑地区まちづくりでは、以下の課題解決に取り組んでいます。

大規模スポーツ施設の老朽化

老朽化した日本を代表するスポーツ施設を競技開催の継続性に配慮しながら連鎖的に更新し、広くスポーツに親しめる世界に誇れるスポーツクラスターを形成

広場等のオープンスペースの不足

新たな100年に向けて、4列のいちょう並木等歴史ある景観を残しながら、外苑の魅力であるみどりやオープンスペースを増大

地区内の回遊性やイベント開催時の歩行空間の不足

歩行者ネットワークを強化し、イベント時も含め多様な来街者が安全に回遊して楽しめる、東京を代表する新たな複合型のまちづくりを推進



みどりを増やします。



安全・安心なスポーツ環境を形成します。



地域を守る防災拠点をめざします。

神宮外苑地区まちづくりプロジェクトサイト

<https://www.jingugaienmachidukuri.jp/>



スポーツ施設の運営及びスポーツの振興に関する業務

各種スポーツの国際大会やイベント等を開催するスポーツ施設の管理・運営を行っています。
また、登山に関する指導者等の養成及び情報提供業務を行う「国立登山研修所」、
そしてスポーツ文化の歴史と伝統を伝える「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館」の管理運営業務を行っています。

スポーツ施設 | 「国立競技場」・「国立代々木競技場」・「秩父宮ラグビー場」・「味の素フィールド西が丘」の管理・運営を行っています。

国立競技場：神宮の杜と調和する日本らしいスタジアム



新しい国立競技場は2019年11月30日に完成し、これまでの国立競技場の歴史を継承しつつ、新時代のスポーツや文化の在り方を発信していけるスタジアムとして生まれ変わりました。2021年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして使用され、現在は陸上競技、サッカー、ラグビーなどのスポーツ競技大会や、文化イベント等にも利用されています。

スタジアムの特徴

■ 杜に溶け込む

柔らかな陰影と温かい質感をつくる木の縦格子と緑で構成されたスタジアムは明治神宮外苑の緑豊かな環境に溶け込み、訪れる人々を温かく迎え入れます。



■ 市民に開く

周辺の公園とつながる「大地の杜」や周長約850mの屋上空間「空の杜」により、市民が散策やスポーツに親しむことができる「スポーツクラスターの新たな拠点」となります。

■ 自然を活用する

「風の大庇」や「風のテラス」から自然の風を取り込み、気流循環をつくり出します。熱や湿気、観客から発生する熱気等を外へ排出し、観客席とフィールドの温熱環境を向上させ、自然エネルギーを活用した環境にやさしいスタジアムとなっています。



■ 木を使う

大屋根には木材と鉄骨を組み合わせた部材を用い、全ての観客席から木の温もりが感じられます。外周の軒庇(のきびさし)には47都道府県から調達した木材をスタジアムの方位に応じて配置し、世界に誇れる日本らしいスタジアムを創出しています。



■ 臨場感をつくる

アスリートと観客との一体感を高めるすり鉢状の3層構造。観客席は、下から上に向かって段階的に変化したモザイク状のアスカラーとなっています。また、スタンドの全層に車椅子席を設置。全ての人が安心して観戦できるユニバーサルな環境となっています。



■ アスリートファーストの環境を整備

スムーズに移動できる専用動線と諸室配置により、アスリートが使いやすく集中力を維持できる環境を整備しています。

施設概要	
所在地	東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
敷地面積	約109,800㎡
建築面積	約69,600㎡
延べ面積	約192,000㎡
高さ	約47m
大きさ	南北方向約350m、東西約260m
階数	地上5階、地下2階
構造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造ほか
観客席	67,750席(うち車椅子席:約500席)
トラック	全天候型400m×9レーン、合成ゴム
芝生	天然芝(地中温度制御システム、散水システム)

国立競技場Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/kokuritu/>



国立代々木競技場(第一体育館・第二体育館)

1964年東京オリンピックのために建設されました。第一体育館は高張力による吊り屋根方式という構造の建築、第二体育館は円錐形の天井が見事なすり鉢状の体育館で、その造形の美しさは国際的に高い評価を得ています。2021年には、国の重要文化財に指定されました。現在、各種スポーツ及び文化的行事に使用されています。第一体育館は、2021年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場としても利用されました。



国立代々木競技場(第一体育館・第二体育館)を上から



第一体育館(上)、第二体育館(下)

施設概要

■ 第一体育館
延べ面積/28,705㎡ アリーナ面積/4,000㎡
収容人員/8,774名(アリーナ席含まない)
※1964年東京オリンピック当時は、50m×8コースの競泳用プールと飛込用プールがありました。

■ 第二体育館
延べ面積/5,644㎡ アリーナ面積/1,300㎡
収容人員/2,811名(アリーナ席含まない)

国立代々木競技場Webサイト

<https://www.jpnsport.go.jp/yoyogi/>



秩父宮ラグビー場

ラグビー専用競技場として1947年に「東京ラグビー場」として完成。後に「秩父宮ラグビー場」と名を改め、1962年10月1日、国立競技場に移管されました。1964年の第18回オリンピック東京大会ではサッカー競技会場として利用され、現在はラグビーの国際試合、日本選手権、リーグワンや関東大学対抗戦などに利用されています。

施設概要

芝生面積/10,515.5㎡
(夏芝:ティフトン、冬芝:ペレニアルライグラスによる二毛作で通年緑化を実施)
敷地面積/35,459㎡ 建築面積/11,741㎡ 収容人員/24,871名



秩父宮ラグビー場

味の素フィールド西が丘

1972年、国立西が丘競技場は、サッカー専用競技場として建設されました。国際試合、天皇杯予選、全日本大学選手権、関東大学リーグ、全日本女子選手権、全国高校選手権などに幅広く利用されています。2012年に、ネーミングライツを導入し、施設名が「味の素フィールド西が丘」となっています。

施設概要

芝生面積/10,614㎡(サッカーコート105m×68m)
(夏芝:ティフトン、冬芝:ペレニアルライグラスで通年緑化を実施)
延べ面積/997㎡ 建築面積/1,186.65㎡ 収容人員/7,258名



味の素フィールド西が丘

国立登山研修所

登山指導者等養成のための専門施設

我が国の登山の健全な発展を図るため、1967年に文部省登山研修所として開所され(2009年に文部科学省から移管)、以来、登山指導者養成のための研修事業や、登山に関する情報提供を行い、登山事故の防止に貢献しています。宿泊施設も兼ねる本館を中心に、ロッククライミング訓練施設等の専門施設を有し、充実した研修を実施することができます。

本館 | 標高/480m 敷地面積/26,114㎡ 建物面積/1,658㎡
附属施設/トレーニング室、宿泊室

スポーツクライミング用人工壁 | 所在地/本館トレーニング室 高さ/6m~8m 幅/17m
面積/118㎡ FRP製

ロッククライミング訓練施設 | 所在地/研修所敷地内 高さ/17.5m 縦/11m 横/13m
墜落確保練習装置あり

夏山前進基地 | 標高/2,450m 敷地面積/725㎡ 収容人員/60名

冬山前進基地 | 標高/1,310m 敷地面積/550㎡ 収容人員/70名

(1) 各種研修会・講習会の開催

大学生の登山リーダー、山岳団体や高等学校、救助組織等で指導的立場にある人を対象に、講義と実技を組み合わせた総合的な研修を行っています。また、安全登山の知識や理論を広く普及することを目的に、講義を中心としたセミナーを開催しています。

(2) 登山に関する最新の知見や技術等についての情報提供

(3) 登山関係団体等の研修事業への施設提供、助言・協力



国立登山研修所本館



登山リーダー冬山研修会

国立登山研修所Webサイト

<https://www.jpnsport.go.jp/tozanken/>



秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

スポーツの歴史や伝統を文化面から支える業務

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館は、日本で唯一の総合スポーツ博物館及び図書館です。昭和天皇の弟君であり、「スポーツの宮様」として親しまれた秩父宮雍仁(ちちぶのみや やすひと) 親王(1902-1953)の我が国のスポーツ界に対する功績を記念し、スポーツの振興に資するため、1959年に開設されました。以後、スポーツに関わる歴史・文化的情報を幅広く提供する活動を行っています。



秩父宮記念ギャラリー



東京オリンピック(1964年)プログラム



東京オリンピック(1964年)デレゲーションユニフォーム

スポーツ博物館Webサイト

<https://www.jpnsport.go.jp/muse/>



ハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC)

ハイパフォーマンススポーツセンター運営部、ハイパフォーマンス戦略部、国立スポーツ科学センター(事務部、スポーツ科学・研究部、スポーツ医学・研究部)、連携・協働推進部、国際情報戦略部、ナショナルトレーニングセンター

国際競技力向上のための研究・支援等に関する事項

JSCではハイパフォーマンススポーツを、世界一を競い合うスポーツと定義しています。ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)は、オリンピック競技とパラリンピック競技を一体的に捉え、国立スポーツ科学センター(JISS)とナショナルトレーニングセンター(NTC)が持つスポーツ医・科学研究、スポーツ医・科学、情報等のサポート及び高度な科学的トレーニング環境を提供し、各種スポーツ資源の開発等を行います。このような取組を通じ、ハイパフォーマンススポーツの強化に貢献しています。



施設の紹介

ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)では、次の施設の管理運営を行っています。

- スポーツ医・科学、情報等の研究、支援を行う国立スポーツ科学センター(JISS)
- トップレベルの競技者が同一拠点で集中的かつ継続的にトレーニングを行う味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)
- サッカー専用競技場である味の素フィールド西が丘・フットサルコート・テニスコート・戸田艇庫

※NTC及び西が丘サッカー場はネーミングライツを導入し、施設名が「味の素ナショナルトレーニングセンター」「味の素フィールド西が丘」となっています。



国立スポーツ科学センター(JISS)



味の素NTC 屋内トレーニングセンター・ウエスト



味の素NTC 屋内トレーニングセンター・イースト



味の素NTC 陸上トレーニング場

実施事業の紹介

国際競技力向上のための研究と支援

スポーツ医・科学支援事業

中央競技団体が行う我が国トップレベルの競技者及びチームの国際競技力向上に向けた活動に対し、スポーツ医・科学、情報等の各分野からサポートを行い、パフォーマンス向上に寄与しています。

スポーツ医・科学研究事業

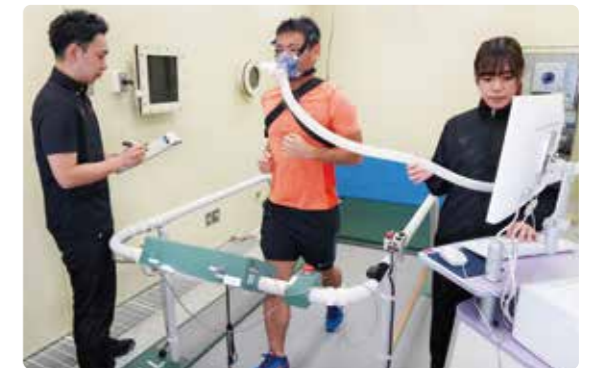
スポーツ医・科学、情報等の各機能が統合したJISSの特長を生かし、国際競技力向上のために有用となる知見や方策を生み出すための調査・研究・開発を行っています。

スポーツ診療事業

トップレベル競技者のスポーツ外傷・障害・疾病に対し、競技スポーツに通じたスポーツドクターやアスレティック・トレーナー等の専門スタッフが、メディカルチェック、診療及びリハビリテーションを通じて、競技者のコンディションを良好な状態に維持・回復させ、オリンピック・パラリンピックをはじめとする各種競技大会において競技力を発揮できるよう支援しています。

スポーツ庁受託事業

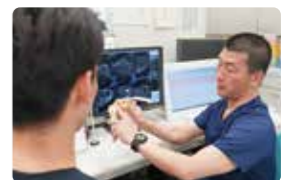
- ハイパフォーマンス・サポート事業
- スポーツ支援強化のための基盤整備事業
- 女性アスリート育成・支援プログラム



スポーツ医・科学支援事業：フィットネスチェック



スポーツ医・科学研究事業：風洞実験

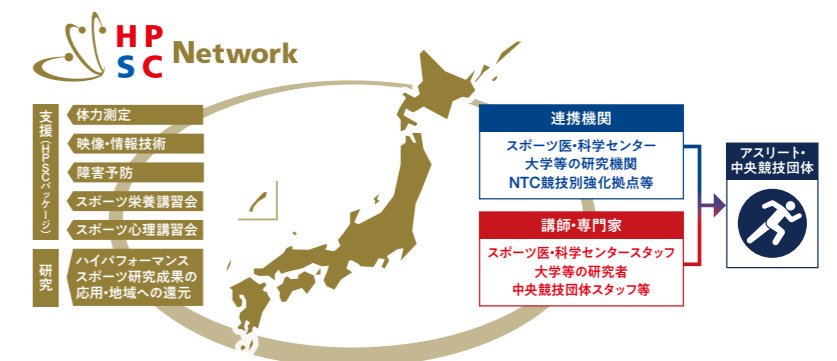


スポーツ診療事業：診療

地域・大学等との連携・協働

HPSCネットワーク

「HPSCネットワークを通じた医・科学、情報サポートの展開」事業は、HPSCが行ってきたスポーツ医・科学、情報サポートの事例や知見をパッケージ化した「HPSCパッケージ」を全国に展開しています。地域におけるトップアスリートのサポート環境の整備とサポート・スペシャリストの養成を促進することで、質の高いサポートが全国各地でシームレスに実施されるような環境を構築することを目指しています。



大学・企業等との連携

大学・企業等との連携を通じて、HPSCの場を活用した研究の連携、実践機会の提供等を行うことにより、HPSCの機能強化を図るとともに、スポーツ医・科学、情報等による研究・支援を担う人材育成を推進しています。

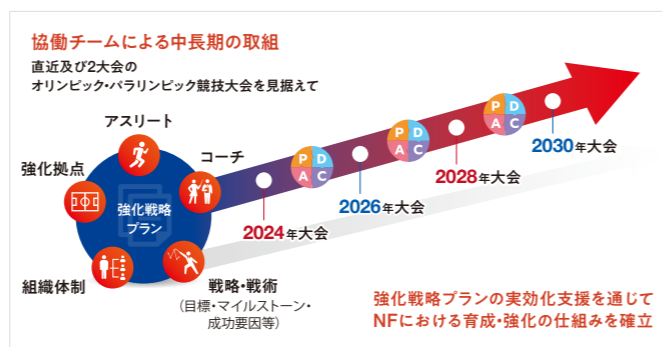
連携協定締結大学 15大学 (締結日順) (2023年4月現在)

国立大学法人 鹿屋体育大学 / 学校法人 朴沢学園 仙台大学 / 学校法人 早稲田大学 / 国立大学法人 筑波大学 / 国立大学法人 東京医科歯科大学 / 学校法人 日本体育大学 / 国立大学法人 大阪大学 / 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 / 学校法人 浪商学園 大阪体育大学 / 国立大学法人 東京大学 / 学校法人 朝日大学 / 学校法人 立命館 立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科 / 学校法人 順天堂 順天堂大学 / 国立大学法人 北海道国立大学機構 北見工業大学 / 北海道公立大学法人 札幌医科大学

競技力向上事業(戦略的強化)

中央競技団体の中長期強化戦略実効化支援事業

中央競技団体が策定する「強化戦略プラン(直近及び2大会先のオリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた中長期計画)」の実効化を支援するために、日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラスポーツ協会(UPSA)日本パラリンピック委員会(JPC)、JSCは、「協働チーム」として様々な活動に取り組んでいます。強化戦略プランの策定支援や実行上の課題解決につながる情報提供及びワークショップの開催、検証段階における会議の開催などを通じてPDCAサイクルの推進を支援し、各競技団体(NF)の育成・強化システムの確立と国際競技力の向上に貢献します。



アスリート育成パスウェイの構築支援

将来オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍するアスリートの発掘・育成の仕組みづくりを支援しています。将来性の豊かな地域のタレント・アスリートからメダル獲得の潜在力を有するメダルポテンシャルアスリートまでの強固で持続可能なアスリート育成パスウェイの構築を目指し、地域タレント発掘・育成事業の関係団体等と連携した、ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク(WPN)を運営している他、全国規模のタレント発掘育成プロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト(J-STAR)」やNFと連携した事業等を展開しています。



国際情報戦略事業

ハイパフォーマンススポーツに関わる国際情報を多角的に収集、分析、蓄積、提供し続け、それらの情報と国際ネットワークを用いて、HPSCの機能強化、持続可能な国際競技力の向上、及びスポーツによる地域・国際社会の発展等に寄与します。

情報調査

ハイパフォーマンススポーツに関わる国際情報を多角的に収集・調査、分析、蓄積し、国内外の関係団体等に提供します。これらの情報は、国内外のスポーツ及び社会の情勢や動向等を適切に踏まえて、日本のハイパフォーマンススポーツ政策・施策を推進するために活用されています。



国際ネットワークのマネジメント

国際ネットワークの戦略的な構築、維持、強化、活用を通して、情報収集・調査活動及び効果的な情報発信を推進するとともに、国際渉外を担い具体的な連携事業につなげています。

JSCとスイスの団体(Swiss Academy for Development(SA4D))が共同開発したスポーツを通じたSDGsマネジメント手法に関するガイドブック



日本語版:
<https://www.iir.jpnsport.go.jp/jp/sdgs/>

英語版:
<https://www.iir.jpnsport.go.jp/en/sdgs/>

能力開発

国際ネットワークと情報を活用し、能力開発のための仕組み、プログラム、コンテンツ等を企画・開発・提供します。これにより、国内外においてハイパフォーマンススポーツの次世代を担う人材の育成を支援します。

HPSC Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/>



関係機関との連携・協働

地方公共団体との連携: JAPAN SPORT NETWORKの構築

スポーツの推進を担う唯一の独立行政法人として、スポーツ関係者のさらなる連携・協働のため、2013年に地域連携ネットワーク「JAPAN SPORT NETWORK(JSN)」を創設しました。

「スポーツの力」共同宣言

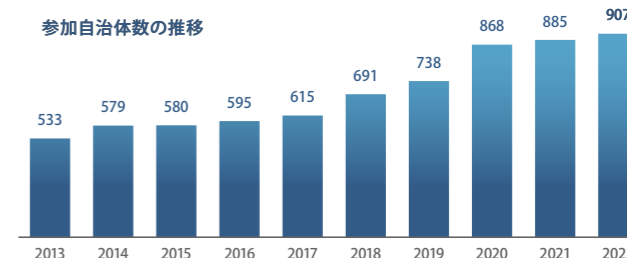
スポーツ基本法は、スポーツを「世界共通の人類の文化である」とし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは「すべての人々の権利」とであると謳っています。日本スポーツ振興センターと地方公共団体は、「スポーツの力」共同宣言を行い、スポーツ基本法の理念の実現を目指していきます。



※自治体首長とJSC理事長の署名による宣言書を取り交わします

全国の907自治体が参加する最大規模のネットワークへ拡大

2023年4月1日現在、都道府県・政令都市・特別区・大都市から小町村まで規模の異なる自治体(907団体)が参加しています。創設以来、参加団体数が増え、スポーツ政策に関する最大規模のネットワークに拡大しています(右グラフ)。



地域スポーツの推進を支援

「地域とスポーツを活性化するための総合的なスポーツ政策プラットフォーム」では、JSN参加自治体に対し、メールニュースやセミナー開催を通して、自治体の先進的な取組事例や政策立案・事業改善に資する情報、さらにはJSCが保有する最新の知見等を提供していきます。

地域とスポーツを活性化するための総合的なスポーツ政策プラットフォーム JAPAN SPORT NETWORK

JSNは、地方公共団体に対して、地域スポーツ政策イノベーションを推進する仕組みと機会を提供します



JSN Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/jsn/>



ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業



大会運営担当者に助言する日本の審判団(日ASEAN友好協力50周年記念レガシー継承事業「第12回ASEAN Para Games(カンボジア)への審判団派遣」)

スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)の元で構築された官民協力体制やこれまでの取組を東京2020大会のレガシーとして継承し、今後国内外で開催される様々な国際競技大会を念頭において、スポーツを通じた国際協力による日本のスポーツのプレゼンス向上に資する取組を発展的に実施するとともに、日本の強みを活かしたスポーツによる国際協力事業を通じてSDGsへの貢献を実現していきます。JSCはスポーツ庁・外務省をはじめとした団体により構成される「SFTコンソーシアム」のネットワークの発展に資する事務局業務を担うと共に、SFT会員等が実施する事業を推進します。

- 事務局運営、SFTコンソーシアムのネットワーク発展
- SDGs課題に主眼を置いた個別事業の展開

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム 事務局
Tel: 03-6804-2776 Mail: sft.info@jpnsport.go.jp
<https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/jp/>



スポーツ振興のための助成業務及びスポーツくじの実施

スポーツくじ、スポーツ振興基金及び国からの交付金によるスポーツ団体等への助成

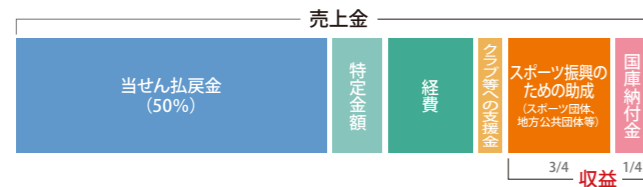
地域におけるスポーツ環境の整備・充実、未来のトップアスリートの発掘・育成、国際競技力の向上など、我が国のスポーツの普及・振興を図るため、スポーツ振興事業助成（スポーツ振興くじ助成、スポーツ振興基金助成、競技強化支援事業助成及び競技力向上事業助成）を行っています。



スポーツくじ

くじ助成の仕組み

スポーツくじは、我が国のスポーツ環境の整備・充実を図るため、新たな財源確保を目的として平成13年に導入されました。スポーツくじの売上金から、当せん払戻金、経費及び特定業務への繰入額（国際スポーツ競技会のためのスポーツ施設の整備等の経費に充当）を除いたものが収益となり、収益の3/4は、スポーツの振興を目的とする事業の資金として助成され、1/4は国庫に納付されます。



平成14年度から、スポーツくじの販売により得られる収益により、誰もが身近にスポーツに親しめる環境づくりから、世界の第一線で活躍する選手の育成まで、地方公共団体及びスポーツ団体が行うスポーツの振興を目的とする事業に対して助成を行っています。これまでに33,695件、約2,495億円の助成を行いました（令和5年度分は配分額）。

スポーツ振興基金

基金助成の仕組み

スポーツ振興基金は、我が国のスポーツの国際競技力の向上とスポーツの裾野を拡大するため、平成2年に政府出資金を受けて設立されました。現在は、民間からの寄附金に基づく基金の運用益や国からの交付金等により、スポーツ団体、選手・指導者等が行う各種スポーツ活動に対して助成を行っています。

スポーツ振興基金への寄附について

現在、国立大学法人、地方公共団体及びスポーツ団体等の協力により設置した自動販売機の売上の一部を寄附していただいているほか、個人・企業等から寄附金の受付を行い、財源の確保に努めています。

- 楽天銀行口座**
支店番号 211 口座番号 7005804
口座名称 独立行政法人日本スポーツ振興センター
- PayPay銀行口座**
支店番号 001 口座番号 0704490
口座名称 独立行政法人日本スポーツ振興センター
- ゆうちょ銀行振替口座（郵便振替口座）**
口座番号 00110-0-539813
口座名称 独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興基金



スポーツ振興基金

くじの仕組み

指定されたサッカーの試合の結果に合致すると当せんとなります。購入者が自分で予想を行うくじ（「toto」「mini toto」「totoGOAL3, totoGOAL2」）と、予想いらずでコンピュータがランダムに試合結果を選択するくじ（「BIG」「MEGA BIG」「100円BIG」「BIG1000」「mini BIG」）があり、これらに加え令和4年9月には、新商品WINNERの販売を開始しました。WINNERは、サッカーやバスケットボールの好きな1試合を選んで予想できるくじです。また、WINNERの売上の一部は、スポーツ振興の財源として活用されることに加えて、J.LEAGUEやB.LEAGUEのクラブチームに還元され、選手等のための環境整備やクラブ強化などに充当されます。令和4年度の売上実績は、約1,114億円となっています。

*19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。

楽しみ方に合わせて選べるスポーツくじのラインナップ



好きな1試合を選んで予想



複数試合を楽しく予想



予想いらずの完全運任せ

国際競技力向上のための助成について

平成15年度から国内のトップリーグの活性化を目的とした活動等に対し競技強化支援事業助成を行っています。また、平成27年度から、戦略的な選手強化を実施することにより、オリンピック・パラリンピック双方の国際競技力向上を図るため、国からの交付金を財源として、競技団体等が行う選手強化事業に対して競技力向上事業助成を行っています。令和4年度からは組織の持続的な成長・拡大に向けた競技団体の改革・自走を促進するため、国からの交付金を財源として、競技団体の組織基盤を確立・強化するための取組に対して組織基盤強化支援事業助成を行っています。

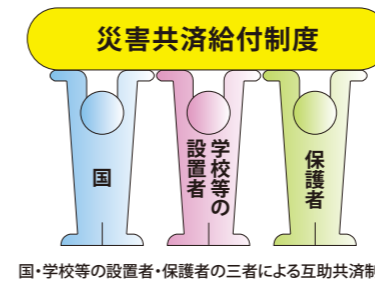
災害共済給付事業の実施

災害共済給付制度の運営及び事故防止のための情報提供

学校等の管理下における児童生徒等の災害に関する医療費等の給付及び学校等における事故防止のための情報提供を行っています。

災害共済給付制度の運営

災害共済給付制度とは、日本スポーツ振興センターと学校等の設置者との契約（災害共済給付契約）により、学校等の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に対して災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）を行うものです。教育課程に基づく授業中（保育中を含む）、部活動などの課外指導中、休憩時間中（始業前、放課後を含む）又は通学（園）中などの災害に対して災害共済給付を行っています。



令和4年度は全国の学校等で、児童生徒等総数の9割を超える1,596万人が加入し、年間約158万件の給付を行いました。

対象となる学校等

学校種別	義務教育諸学校、高等学校、高等専門学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、高等専修学校、保育所等
------	---

給付金額

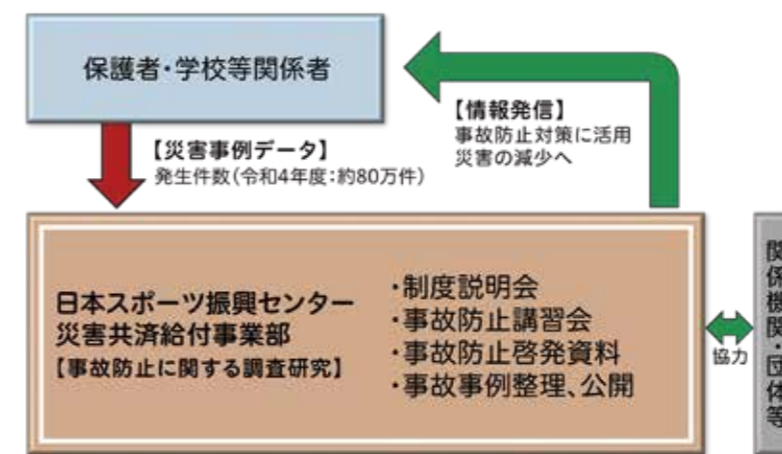
医療費	原則として医療保険外の「療養に要する費用の額」の4/10
障害見舞金	障害の程度により第1級4,000万円～第14級88万円（通学中の災害は半額）
死亡見舞金	3,000万円（運動性のない突然死、通学中の災害は半額）

令和4年度災害共済給付実績

	医療費	障害見舞金	死亡見舞金	計
件数(件)	1,577,142	259	41	1,577,442
金額(千円)	11,946,653	1,117,940	1,111,000	14,175,593

事故防止のための情報提供

災害共済給付の事故情報を活用して、事例・統計データの整理、分析及び調査研究を行い、学校関係者等に対して事故防止のための情報提供を行っています。ハンドブック、映像資料等の提供を行うほか、セミナーを開催しています。



刊行物



スポーツ庁委託事業成果物



教材カード(年4回発行)



パンフレット

スポーツ振興くじ、スポーツ振興基金と助成事業Webサイト
<https://www.jpnsport.go.jp/sinko/>



スポーツくじオフィシャルサイト
<https://www.toto-dream.com/>



「災害共済給付Web」Webサイト

<https://www.jpnsport.go.jp/anzen/>



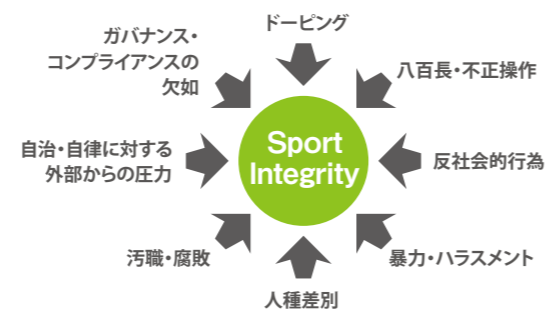
スポーツ・インテグリティの確保に関する業務

「インテグリティ」とは、**高潔さ・品位・完全な状態、を意味する言葉です。**

スポーツにおける「インテグリティ」とは、スポーツが様々な脅威により欠けることなく、価値ある高潔な状態を指します。私たちは、様々な脅威からスポーツの安全・公正・公平などを守る取組を実施することにより、スポーツ及びスポーツ団体の価値や高潔性が損なわれることなく、社会の中で存続・発展し続けるための土台づくりに貢献しています。

(右図) Australian Sports Commission 及び Oxford Research A/S (2010) を参考に作成
【参考文献】 Oxford Research A/S, 2010. Examination on Threats to the Integrity of Sports

スポーツ・インテグリティを脅かす要因



スポーツにおけるドーピング防止活動に関する業務



ドーピング調査(インテリジェンス活動)

「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律」の目的及び理念を尊重し、ドーピング検査だけでは特定できない、組織化・巧妙化しているといわれるアンチ・ドーピング規則違反を発見・特定するためのドーピング調査を実施しています。また、その情報収集手段の一つとして、ドーピング通報窓口を設置・運用しています。

ドーピング通報窓口専用サイト | <https://www.report-doping.jpnsport.go.jp>



日本アンチ・ドーピング規律パネルの運営

アンチ・ドーピング規則違反についての事実の有無を認定し、措置を決定する役割を担う、日本アンチ・ドーピング規律パネルを所管しています。

スポーツ指導における暴力行為等に関する第三者相談・調査制度に関する業務



トップアスリートのための相談窓口の運営

スポーツを行う者の権利・利益の保護及びスポーツに関する活動の公正かつ適切な実施の確保へ向け、「トップアスリートのための暴力・ハラスメント相談窓口」を運営しています。相談はメール及びLINEにて受け付けています。

相談窓口サイト | <https://www.jpnsport.go.jp/corp/gyoumu/tabid/517/Default.aspx>



スポーツにおけるガバナンス・コンプライアンスに関する業務

中央競技団体のガバナンス・コンプライアンス診断

中央競技団体のより良い団体運営を促進するため、ガバナンスの実効性及びコンプライアンスの現況に関する診断を行い、必要に応じて改善施策の支援をする活動を行っています。これにより、スポーツ・インテグリティを脅かす不適切行為の発生を未然に防ぐことに貢献します。

「スポーツガバナンスウェブサイト」の運用

スポーツ庁が公表した「スポーツ団体ガバナンスコード〈一般スポーツ団体向け〉」に基づき、スポーツ団体が自らの団体運営の状況について、簡便に自己説明・公表が行えるウェブサイトを活用しています。

スポーツガバナンスウェブサイト | <https://www.sg-web.jpnsport.go.jp>



スポーツ団体ガバナンス支援委員会の運営

中央競技団体においてガバナンスの機能不全等による不祥事案が発生し、第三者による調査等が必要となる事態が生じた際に、弁護士や公認会計士等による、第三者調査に関する助言等の支援を行います。

SPORTS JAPAN アンバサダー

「SPORTS JAPAN」の理念をたくさんの人々に訴求するメッセンジャーとしての役割と日本スポーツ振興センターと一緒にスポーツを通じて、日本(日本国民)の「信頼」「規範」「ネットワーク(絆)」(=「ソーシャル・キャピタル」)の構築を推進するパートナーとしての役割の両方を担っていただいています。

アンバサダー No.001 谷本歩実	アンバサダー No.009 小原日登美	
アンバサダー No.002 北澤豪	アンバサダー No.010 鹿島丈博	
アンバサダー No.003 朝原宣治	アンバサダー No.011 米満達弘	
アンバサダー No.004 柴田亜衣	アンバサダー No.012 皆川賢太郎	
アンバサダー No.005 大日方邦子	アンバサダー No.013 上野由岐子	
アンバサダー No.006 大畑大介	アンバサダー No.014 京谷和幸	
アンバサダー No.007 谷真海	アンバサダー No.015 田中琴乃	
アンバサダー No.008 鶴岡剣太郎	アンバサダー No.016 池田信太郎	
	アンバサダー No.017 野村忠宏	
	アンバサダー No.018 豊田まみ子	
	アンバサダー No.019 岡崎朋美	
	アンバサダー No.020 三阪洋行	
	アンバサダー No.021 平野早矢香	



※2023年4月1日現在

総勘定



※同一セグメント内で勘定間の繰入額があり、損益計算書科目の費用と収益が両建てされている場合には相殺している。

センターの経理は、複数の勘定に区分されており、それぞれの勘定ごとの令和5年度予算は、次のとおりです。

投票勘定

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
スポーツ振興投票事業収入	110,512	業務経費	40,150
スポーツ振興投票事業準備金戻入	11,617	うち、人件費	527
利息収入	28	スポーツ振興投票業務運営費	28,006
		スポーツ振興投票助成事業費	11,617
		一般管理費	167
		私戻返還金	55,000
		国庫納付金	3,890
		特定業務勘定へ繰入	11,000
		スポーツ振興投票事業準備金繰入	11,671
計	122,157	計	121,878

災害共済給付勘定

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
災害共済給付補助金	2,032	給付金	15,351
共済掛金収入	15,753	災害共済給付業務経費	1,000
免責特約勘定より受入	249		
利息収入	12		
計	18,046	計	16,351

免責特約勘定

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
共済掛金収入	233	災害共済給付勘定へ繰入	249
利息収入	2	免責特約業務経費	30
計	235	計	279

特定業務勘定

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
投票勘定より受入	11,000	業務経費	0
特定業務特別準備金戻入	9,000	うち、新国立競技場整備事業費	0
長期借入金等	8,120	国立代々木競技場耐震改修等工事費	0
うち、長期借入金(勘定間融通分)	8,120	ナショナルトレーニングセンター拡充整備用地取得等費	0
利息収入	5	特定業務特別準備金繰入	11,000
		事業外支出	17,245
		うち、借入金等償還	17,030
		支払利息	215
計	28,125	計	28,245

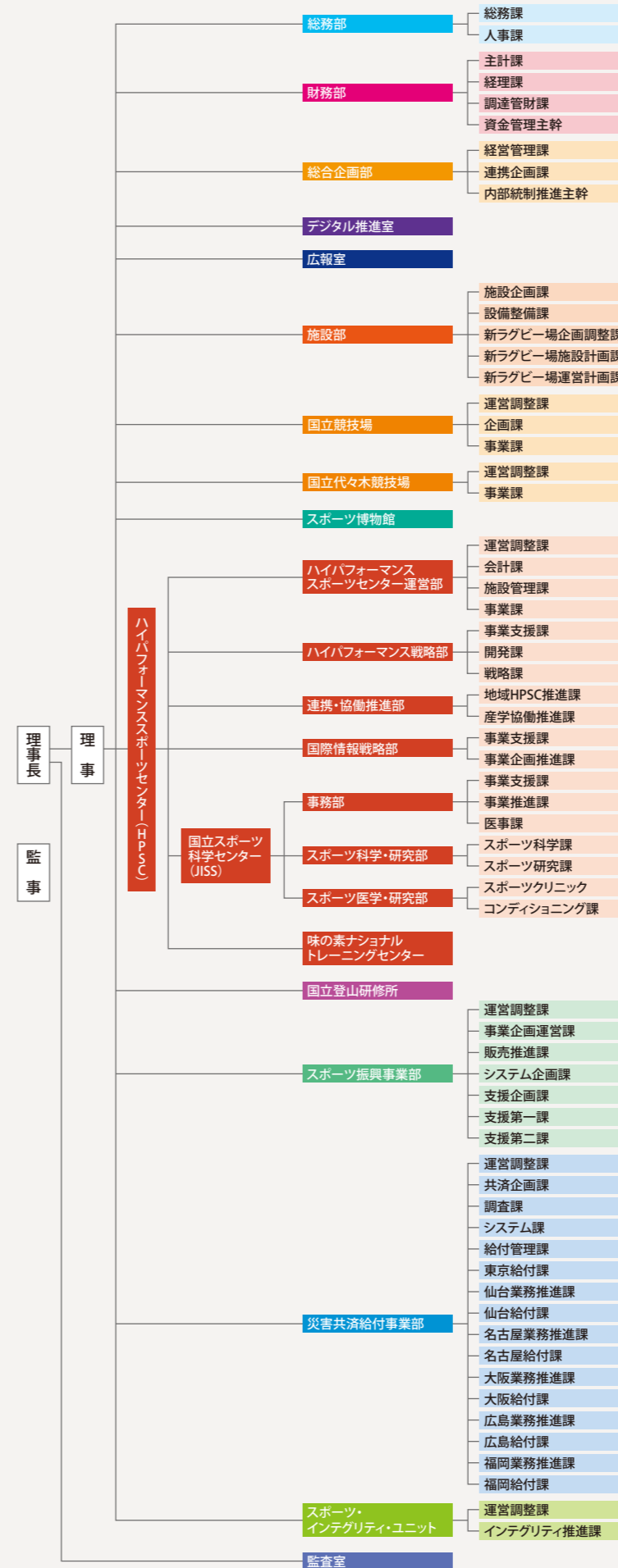
一般勘定

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	19,932	業務経費	22,292
施設整備費補助金	1,733	うち、人件費(事業系)	2,925
研究設備整備費補助金	499	国立競技場等運営費	3,979
基金運用収入	80	国立スポーツ科学センター運営費	1,805
国立競技場等運営収入	2,843	ナショナルトレーニングセンター運営費	1,979
国立スポーツ科学センター運営収入	313	国立登山研修所運営費	44
ナショナルトレーニングセンター運営収入	730	スポーツ振興基金事業費	895
国立登山研修所運営収入	3	競技力向上事業費	9,966
スポーツ及び健康教育普及事業収入	20	組織基盤強化支援事業費	300
受託事業収入	1,737	スポーツ活動環境公正化事業費	88
寄附金収入	18	スポーツ及び健康教育普及事業費	311
営業外収入	118	受託事業費	1,737
利息収入	10	一般管理費	1,796
その他収入	20	うち、人件費(管理系)	906
		物件費	890
		施設整備費	1,733
		研究設備整備費	499
計	28,057	計	28,057

※各欄積算と合計欄の数字は四捨五入の関係で一致しないことがある。
※一般勘定の「施設整備費補助金」、「研究設備整備費補助金」及び「寄附金収入」には前年度より繰越額のうち今年度使用見込額を含む。

資金の状況

区分	令和4年度期首残高	令和4年度増加額	令和4年度減少額	令和5年度期首残高
政府出資金	257,355	-	-	257,355



連絡先一覧

- 外苑事務所**
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
総務部総務課/Tel:03-5410-9124 (代表)
財務部主計課/Tel:03-5410-9139
総合企画部経営管理課/Tel:03-5410-9123
広報室/Tel:03-5410-9121
施設部/Tel:03-5410-9152
スポーツ振興事業部運営調整課/Tel:03-5410-9149
災害共済給付事業部運営調整課/Tel:03-5410-9158
スポーツ・インテグリティ・ユニット運営調整課/Tel:03-6804-3759

国立競技場

- 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
Tel:03-5843-1300

国立代々木競技場

- 〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1
Tel:03-3468-1171

秩父宮ラグビー場

- 〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
事業課/Tel:03-3401-3881
テニスコート/Tel:03-3408-4495

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

- 〒273-0017 千葉県船橋市西浦2丁目5-3 (株)ロジ・レックス 船橋第一倉庫5階
Tel:047-401-1724

ハイパフォーマンススポーツセンター

- 国立スポーツ科学センター
味の素ナショナルトレーニングセンター
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1他
Tel:03-5963-0200

味の素フィールド西が丘

- 〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
Tel:03-5963-0203

戸田艇庫

- 〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園4-9
Tel:048-441-2580

国立登山研修所

- 〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ナ坂6
Tel:076-482-1211

仙台支所

- 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-5-15日本生命仙台台勾当台南ビル8階
災害共済給付事業部仙台業務推進課/Tel:022-716-2106

名古屋支所

- 〒450-0001 愛知県名古屋市市中村区那古野1-47-1名古屋国際センタービル16階
災害共済給付事業部名古屋業務推進課/Tel:052-533-7821

大阪支所

- 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4大阪駅前第4ビル7階
災害共済給付事業部大阪業務推進課/Tel:06-6456-3601

広島支所

- 〒730-0011 広島県広島市中区基町9-32広島市水道局基町庁舎10階
災害共済給付事業部広島業務推進課/Tel:082-511-2822

福岡支所

- 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-8-15福岡ガーデンパレス4階
災害共済給付事業部福岡業務推進課/Tel:092-738-8720